

ispace のシリーズ A 調達を主導した INCJ が全株式売却を報告

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、本日、2017年のシリーズ A ラウンドを主導いただいた株式会社 INCJ（以下、INCJ）より、所有していた ispace の全株式の売却完了をご報告いただきましたので、お知らせいたします。

INCJ は 2024 年 4 月以降、投資時の目的は果たされたとのこと判断から、ispace の株式売却を段階的に進められていました。なお INCJ の運営期限は 2025 年 3 月末までとなっています。

売却の詳細は INCJ の大量保有報告書及び変更保有報告書にてご報告された通りですが、売却に当たっては当社と丁寧な対話を重ねつつ、慎重に進めていただきました。

国内の宇宙産業に先鞭をつけ、黎明期から長きに渡り継続的に経営支援を頂いたことに深く感謝申し上げます。なお詳細につきましては INCJ のプレスリリースをご参照ください（[URL](#)）。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田 武史 コメント

「INCJ 様には、2017 年当時、ispace がランダー開発の第一歩を踏み出す極めて大事な局面で、当時宇宙分野のシリーズ A として世界最高額となる資金調達の実現を、力強く後押しいただきました。今般の INCJ 様による投資時の目的達成による売却の報告は、2023 年の上場後、ispace の事業が順調に成長していることの証左と捉えております。また、日本のディープテックのスタートアップエコシステムの好循環を生み出すことに大きく貢献いただきました。いよいよミッション 2 に挑戦する今冬、ご投資頂いた種を大きく開花させ、ispace が成功する姿をお見せできるように頑張ることをお約束いたします。」

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続く 2024 年冬にミッション 2 の打ち上げを、2026 年ⁱⁱにミッション 3、2027 年ⁱⁱⁱにミッション 6 の打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

i 2024 年 9 月時点の想定

ii 2024 年 9 月時点の想定

iii 2024 年 9 月時点の想定